

ごあいさつ

平成 23 年度 校長 高 畠 勇 二

前任の長谷川秀一先生を中心に、「学力向上 授業改善と読書」をテーマとして開進第一中学校が全校で 10 年にわたって継続して取り組んできた研究の成果は、今の毎日の授業や生徒の学校生活に端的に現れていると感じています。

これまで練馬区立開進第一中学校の研究活動にかかわられた先生方、職員の皆さん、そして何よりもその研究を支援しご指導くださった講師の先生方や練馬区教育委員会に対して、心から敬意を表します。

さて、来年度から完全実施される新学習指導要領の大きな柱の中に、「言語活動の充実」があります。これまで本校で取り組んできた研究は、まさにこの柱を見据えた視点の研究として大変意味のあるものだと思っております。また、これに加えて、生徒の実態を把握すること、生徒の声に耳を傾けることも本校の研究の重要な視点となっています。

全教員が自ら授業を改善するという取り組みで、象徴的な改善事項は、

板書や授業の中で「めあて」を生徒に明確に示す

学び合いのある授業のために生徒の意見発表などの場を授業の中でより多く設定するということでした。そして、この基盤となるものとして国語科を中心とした読書指導が重要な役割を果たしてきました。

これまでの本校の 10 年間の研究成果を引き継ぎ、これからさらに発展させていくことが今の学校教職員に課せられた使命だと実感しています。この研究の成果は、今後必ず授業を通して生徒たちに返してまいりますし、自信をもって生徒たちの前に立つことができる教員になるための大切な共有財産といたします。

終わりになりますが、これまで研究を進めてこられた元教職員の皆様、ご指導くださった練馬区教育委員会、講師の先生方、研究を支えてくださいました皆さま、そして何よりも研究を共に歩んできた開進第一中学校の生徒、保護者、地域の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。

平成 23 年 10 月